

## A-1 創エネ・エネルギーの地産地消

### 中項目 A-1-1 太陽光発電の導入

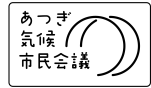
★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容  
 ★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

厚木市民は再エネ発電を2019年比2030年までに3.7倍、2050年までに9倍に増やすため、太陽光発電を中心に可能なすべてのところに設置します。また蓄電池の普及拡大にも注力します。2050年には再エネ発電の利用率を100%にします。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
①	戸建て住宅の設置可能なところにはすべて太陽光パネルを設置し、なるべく蓄電池もセットで導入する。	推進するための相談窓口を作り、発電設備の必要性とメリット、必要な条件やリスクを説明する。活用しやすい補助金制度や第三者所有のスキーム(PPA)などいろいろな選択肢を示す。	● ● ●
②	すべての新築戸建て住宅において、太陽光パネルと蓄電池設備の設置を推奨する。or 義務化する。		● ● △
③	戸建て住宅以外の住宅、集合住宅にも太陽光発電を設置し、住民がその電気を活用できる仕組みを検討する。EV車充電設備なども。分譲住宅、賃貸住宅、公営住宅など各条件で使える仕組みを作る。		● ● ●
④	公共施設の建物への先行的な設置を支援する。駐車場へのソーラーカーポート	推進のための市民団体・市民出資/公園に設置し子供たちが遊びやすい環境を整える。/駐車場のソーラーカーポート/プールに屋根をつけてソーラーパネル	● ● △
⑤	企業・事業者・大学の建物にも可能なところはすべて太陽光発電設備の設置を促す。新規建設の場合は義務化し、その条件で誘致を図る。	とりわけ屋根面積の大きい流通倉庫では必須として、EV車による輸送を可能とする充電設備も完備するようにする。/条件を満たす企業への優遇措置を提案	● ● ●
⑥	厚木市内の店舗でも太陽光発電設備をつけ、それをPRすることで市民の再エネ普及意識向上にもつなげる。	日照条件がよければ駅周辺にアーケード+ソーラーパネル。商業施設の屋外駐車場、★コインパーキングなど日商条件のよいところにソーラーカーポート(建築基準法の緩和が必要)	● ●
⑦	農地に2030年までに30MW(水田にして500~600反)のソーラーシェアリングを普及させる。/★農業の継続支援と発電した電気を需要者へ届ける仕組み(オフサイトPPA)を整備する。	農地に2030年までに30MW(水田にして500~600反)のソーラーシェアリングを普及させる。/★農業の継続支援と発電した電気を需要者へ届ける仕組み(オフサイトPPA)を整備する。	● ● ●
⑧	ペロブスカイトなど新技術の積極的な導入を図るため、公共施設では優先的に採用する。	太陽光発電に関する共同研究・開発の組織を作り、推進する。	● ●
⑨	太陽光パネル設置場所で自家消費を基本とする。余剰電力は地域での蓄電し活用、さらに災害時に地域内で電気を有効にまかなえる仕組みを検討する。		● ● ●
⑩	★メガソーラー設置計画については市の許可を必要とする条例を制定する。		●

# アクションプラン素案



## A-1 創エネ・エネルギーの地産地消

### 中項目 A-1-2 再エネの地産地消実現

厚木市では地域内で作った再エネ電力を地域内で消費するために、地域新電力を作ります。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑪	地域新電力を設置するための基本的な条件を調査し、基本コンセプト、出資者、運営主体、規模、エリアなどを検討する機関をつくる。／市民出資で地域新電力会社を設立する		● ● ●

### 中項目 A-1-3 地域エネルギーマネジメントシステム構築

厚木市では地域エネルギーマネジメントシステムを構築し、災害時のレジリエンスを高めるとともに、地域経済の循環・活性化を目指します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑫	地域エネルギーマネジメントシステムの先行事例に学び、システム構築の可能性を検討する。	地域エネルギーマネジメントシステム構築のためのグリーンボンドへ投資する。//蓄電池、EV活用、地域の共有蓄電池・・・(北陸電力が家庭の蓄電池活用したプランを事業化)	● ● ●

### 中項目 A-1-4 多様な再エネ導入の検討

太陽光発電以外の多様な再エネ発電の可能性を検討します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑬	バイオマス、小水力、その他の発電の可能性を検討するチームを作る。	畜産汚泥を活用したバイオマスエネルギープラントを市民出資でつくる。(再エネ活用畜産物で、カーボンフリー畜産物のブランド化)	● ● ●

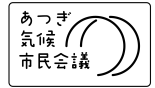
### 中項目 A-1-5 熱利用の検討

太陽熱を含む熱利用の可能性を検討します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑭	熱利用の可能性を検討するチームを作る。		● ● ●

# アクションプラン素案



## A-2 移動・まちづくり

### 中項目 A-2-1 コンパクトシティ

日常生活は歩いて暮らせるコンパクトシティを作ります。必要な機能や施設が揃い住む人の交流ができる暮らしやすいまちにします。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市		
			市民	行政	事業者
①	住んでいる地域で日常生活は徒歩や自転車で暮らせる		●	●	●
②	駅周辺の市街地へのマイカー乗り入れ制限し公共交通乗り入れのみとする。／緑が多く歩きやすい、カフェや休憩所も多い歩きやすいまちとする。／日射条件がよいところにはソーラーパネルのついたアーケードを設置する	車を持たない人に利便性の高いまちづくりをするための協議体をつくる	●	●	●

### 中項目 A-2-2 公共交通の充実

カーボンフットプリントを考慮した移動手段である公共交通のバスが利用しやすいまちにします。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市		
			市民	行政	事業者
③	バス専用レーンなど渋滞がなく時間が正確で使いやすい。／公共交通利用促進策を市民が提案する		●	●	●
④	バス路線をわかりやすく。イベントなどに合わせて拡充し使いやすい。／市内どこへでも行きやすいように。			●	●
⑤	公共交通のサブスク化で広域でも使いやすいとする		●	●	●
⑥	バスのEV化加速する／中型・小型バス		●	●	●
⑦	バス利用でポイントなどお得感ありにして利用者を増やす。		●	●	●
⑧	駅前を含むバス停にレンタサイクル、駐輪場、待合室などバス利用しやすいしくみを整備		●	●	●
⑨	バリアフリーバスで車いすでの乗降がスムーズにできる				●
⑩	自動運転バス、オンデマンドバス(個人の要求に合わせた運航)		●	●	●

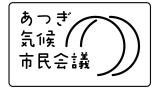
### 中項目 A-2-3 マイカー所有

【要討議】: 2050年マイカー自己所有をゼロを目指す／減らす

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市		
			市民	行政	事業者
⑪	(EV)カーシェアリングを普及する	運営主体、運営方法、場所、条件、利用者の優遇措置などを検討し提案する	●	●	●
⑫	市街地への自家用車乗り入れ制限			●	●
⑬	車を持たない人が優遇される仕組みをつくる		●	●	

# アクションプラン素案



## A-2 移動・まちづくり

★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容  
 ☆会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

### 中項目 A-2-4 EV車普及

【要討議】:EV車の普及する／厚木市民は日産のEVを購入する(これはアクションの一つとして小項目に移すか)

主体者● 協力者△

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑭	EV車のメリット、デメリットを理解したうえでEV車の普及を促進する。		● ● ●
⑮	EV充電設備の拡充をする	EV充電スポットには太陽光発電を設置する	● ● ●
⑯	全個体電池、車種の選択肢を増やすなど製品の充実を促す。		● ● ●
⑰	日産のEV購入に厚木市民はインセンティブ受けられる。		● ● ●
⑱	情報や知識を得て利用するために1週間くらいの貸し出し期間を設ける。		● ● ●
⑲	★公用車のEV化を優先的にすすめ、休日はカーシェアを行う		● ● ●

### 中項目 A-2-5 徒歩や自転車で暮らせるまち

(10km以内の／近距離の)移動においては自転車や徒歩移動をするようにします。安全と健康増進につながります。

主体者● 協力者△

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑳	自転車専用レーンを増やす。専用道路を作る		● ● ●
㉑	自転車利用でエコポイントや自転車マイレージなどのインセンティブがある。		● ● ●
㉒	自転車のマナーアップを図る		● ● ●
㉓	キックボードも自転車と同様な安全確保とマナーアップ		● ● ●
㉔	★シェアサイクルを拡充、駅周辺や拠点バス停に配備する。電動アシストサイクルも整備する。		● ● ●

### 中項目 A-2-6 新しい移動手段やサービスの導入

新しい移動の手段やMaaSを活用して快適なまちをつくりまします。

主体者● 協力者△

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
㉕	MAASの利点と持続可能な交通手段の重要性についての啓発活動を実施し、市民の意識を高める		● ● ●
㉖	CO2排出が少ない移動手段の導入を検討する(路面電車、モノレール、グリーンスローモビリティ)		● ● ●

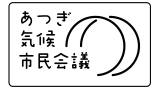
### 中項目 A-2-7 【文案作成中】

新しい移動の手段やMaaSを活用して快適なまちをつくりまします。

主体者● 協力者△

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
㉗	ドローン配達 ☆自転車やEV車を利用した宅配サービスを選択する。		● ● ●

# アクションプラン素案



★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容

★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

## B-1 省エネ・住まい

### 中項目 B-1-1 住まいの断熱による省エネと健康の促進

すべての住宅(戸建て・集合住宅)で最も効果の大きい省エネ対策である断熱を積極的に取り入れ、CO2削減だけでなく室内での熱中症やヒートショックのない健康的な環境も実現します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
①	<b>新築住宅</b> は断熱性能の高いZEH(集合住宅ではZEB)を標準とする。	支援する仕組みを整備する。	● ● ●
②	既存住宅は断熱性の高い住宅への <b>リフォーム</b> を行う。	市は情報提供、相談窓口、補助金制度などの支援する仕組みを整備する。	● ● ●
③	住宅の断熱性能向上に有効な <b>窓の断熱</b> を取り入れる。戸建て住宅、集合住宅(持ち家、賃貸とも)すべての住宅に普及する。	行政による支援の仕組みを整備する。情報提供機会を創出、業者の認定制度を活用。1日宿泊体験などを実施する。新築住宅では窓は小さく、少なくする。	● ● ●
④	★窓断熱するとコスト的にも健康面でも優位であることを回覧板でまわす。ナッジを活用して、面倒くさいと思う気持ちを後押しする。	窓断熱対策についてのモニタリング組織をつくる。	● ● ●
⑤	<b>賃貸住宅</b> での断熱性向上を普及させる支援策を講じる		● ●
⑥	建物でのエネルギー消費量を見える化し、常に意識する。	基準を満たした場合には何らかの優遇を受けられる仕組みを作る。	● ● ●
⑦	★ <b>断熱リフォームをDIY</b> で行う市民への支援(情報提供、技術指導)。 <b>学校の教室を断熱リフォームDIY</b> で普及する。		● ● ●
⑧	子供たちへの教育 省エネやライフスタイルについて体験学習プログラムを提供する。		● ● ●

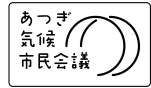
### 中項目 B-1-2 家庭の電気は再エネ電源に切り替え

家の電気は再エネの電源構成比率の高い電力会社と契約します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑨	★家の電気は再エネの電源構成比率の高い電力会社に契約し、家庭でのCO2排出を半分にする。	★電力小売業者を招き、再エネ契約切替会を定期的開催する。 パワーシフトキャンペーンへの登録を推奨する。またはサイトを紹介する。回覧板で毎年9月の気候アクションに合わせてチラシを配布する。 ★課題)集合住宅などで一括受電しているような場合は、自分で電力会社を選択できない。	●

# アクションプラン素案



★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容  
 ★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

## B-1 省エネ・住まい

### 中項目 B-1-3 家庭での省エネ家電の選択

家庭での省エネ機器、省エネ家電を導入してCO2排出を削減します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑩	家電買い替え時は製品の省エネ性能を重要な選択条件として購入する。	店舗以外に相談窓口があるといい。(使用している家電を買い換えたほうがいいのかという相談もできるといい)/家電製品は省エネルギーラベルを参考にトップランナー基準を達成した(省エネ基準達成率100%以上)製品を選んで購入します	● ● ●

### 中項目 B-1-4 家庭での太陽熱利用

太陽熱利用の集熱器を活用します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑪	太陽熱利用を導入するための相談窓口や支援を整備する。給湯設備に太陽熱温水器を取り入れる。		● ●

### 中項目 B-1-5 公共施設などの省エネと活用

公共施設やお店・事業所も省エネ建築を促進、または省エネ改修し、市民はクールシェア・ウォームシェアをして市内のCO2削減を加速します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑫	★新築はZEBを推奨し、支援策を整備する。		● ● ●
⑬	★公民館、児童館、学校の空き教室など共有スペースを地域住民がより使いやすく整備する。		● ● ●

## B-2 消費・食・農・廃棄

### 中項目 B-2-1 大量生産・大量消費・大量廃棄の価値観の見直し

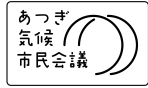
大量生産、大量消費、大量廃棄のライフスタイルや価値観を転換し、必要なものだけを消費する「適量消費」や環境への負荷を考慮した「環境配慮消費」を行います。愛着品を長く大事に使います。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
①	エシカル消費を周知し、必要な質・量を買う消費活動を行う。	不要なものを買わないような工夫を凝らす。アプリ等の活用	● ●
②	厚木市をリユースショップがたくさんある「リユースシティ」にする。	EV充電スポットには太陽光発電を設置する	● ●
③	成長期の子供衣類、学校の制服などのリユースの仕組みや場所を充実させ活用を広める。		● ● ●



# アクションプラン素案



★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容

★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

## B-2 消費・食・農・廃棄

### 中項目 B-2-2 CO2排出の少ない製品や販売方法の選択ができるようにする

製品へのカーボンフットプリントの表示、量り売り、エシカル消費、営業時間の見直し

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市		
			市民	行政	事業者
④	★商品にカーボンフットプリントを掲示し、市民はCFPの小さい商品を購入できるようにする。	事業者はCFPを表示する仕組みをつくり、行政は後押しをする。 ★課題)CFPを表示できるのは特定の分野に限られる。表示できても公正な比較ができるか。	●	●	●
⑤	量り売りのお店を増やし、使い捨てプラ容器の使用を減らす。	お惣菜やお弁当を使い捨て容器でなく、持参したタッパーなどで持ち帰る。/店舗で食品トレイの回収/ポイントがたまるなどのインセンティブを	●	●	●
⑥	PETボトルの自動販売機飲料を減らす。マイボトル、マイ容器で受ける自動販売飲料をふやす。		●	●	●
⑦	規定面積以上の店舗ではエシカル商品コーナーを設置し、エシカル消費について発信・周知に努める。		●	●	●
⑧	★温暖化が進むならば、日中クローズして、涼しい夜間に営業する形態に変更する。年末年始は1週間地元で静かに過ごす。		●		●
⑨	★24時間営業を見直す。		●		●

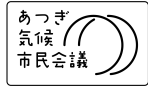
### 中項目 B-2-3 健康を支える食と持続可能な農業でCO2排出削減

オーガニックの農産物を多く取り入れ、農業、土壌に由来するCO2排出を削減します。2050年にはCNで心も体も喜ぶ農産物でいっぱい厚木にする。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市		
			市民	行政	事業者
⑩	学校給食をオーガニックにすることで、需要を増やし、就農者の確保と作付面積の拡大につなげる。		●	●	●
⑪	援農ボランティアに参加する。//地域の環境再生型農業(不耕起栽培等)に参加する。	★個別に個々の農家に行くだけでなく、援農ボランティアのプラットフォームをつくり、マッチング等を行い、気軽に参加できる土壤をつくる。	●		●
⑫	生産者の顔の見えるものを買う。地産のものマーケットに買いに行く//地域の野菜販売所を利用しやすくする。仕事帰りにも買えるようにする。		●		●
⑬	地区ごとに市民で共同の環境再生型農業(不耕起栽培等)の地区をつくり、土壌炭素吸収量を増やす(×市民農園+ソーラーシェアリング)		●	●	●
⑭	★牛肉のことは全く4回目の議論に入っていなかったがどうか? CFPの高い食材をなるべく減らす/厚木の畜産をCNにする。	★竹林のバイオマス資材を飼料へ活用。畜産由来の糞尿をバイオマスエネルギー化。	●		●
⑮	★SDGsパートナーなどのプラットフォームを活用して規格外の野菜を市場に供給する仕組みを整備しつつ、スーパー、農産物直売所、地元のレストランなどと提携し、規格外の野菜を提供できる場を着実に増やす		●	●	●
⑯	★農地や森林による炭素固定・吸収量を増やす。耕作放棄地を非就農者でも農地を借りれるようにして、環境再生型農業(不耕起栽培等)を行う。人口減少により空地となった地区へ雑木林の公園をふやす。	★バイオ炭をとり入れた農業を実践する ★課題)IC付近で農地転用が急増している。//生物多様性あつぎ戦略(改訂中)との連携	●	●	●

# アクションプラン素案



★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容

★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

## B-2 消費・食・農・廃棄

### 中項目 B-2-4 ごみの減量、資源のリサイクル推進

ごみを出さない暮らしをする/ごみを出さないライフスタイルを推進する

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑰	お店、コンビニ、レストランからの食品ロス削減 / 安価販売		● ● ●
⑱	生ごみコンポスト化95%をめざし、焼却ごみの削減と水分割合を削減し、ごみ焼却工程由来のCO2排出をxx%削減する	コンポストリサイクルシステムを構築するために、協議会を発足させる	● ●
⑲	【文章要作成】	コンポストで作ったたい肥を販売するしくみをつくる。/JAの農家さんに提供。コンポスト肥料を渡したらクーポン。 課題)賃貸住宅やアパート、マンションの人がコンポストに肥料を作っても使い道がない。それを誰か引き取ってくれる人がいるシステムが必要。	● ● ●
⑳	紙おむつのリサイクルシステムを作る。		● ● ●
㉑	★学校、公民館、職場などでリサイクルと廃棄物削減に関する啓発活動を実施し、持続可能な消費に対する意識を高めることにより、使い捨て商品から市民に再利用、リサイクル、持続可能な選択肢への移行を促進する	★野外イベントはごみゼロで行う。リユース食器を活用または、容器持参する。テイクアウトもリユース食器を使える仕組みをつくる。	● ● ●
㉒	★ごみの焼却量を削減しCO2の発生を抑制するために、生ごみの削減家庭からの生ごみ削減するアクションプランを提言する。目標:2023年から2030年までの7年間で、年間の食品廃棄物を10%ずつ減少させ、2030年までに70%の削減を達成する。	★生ごみ削減アクションプラン:目標達成のための計画:a食品の購入計画 食材の購入前に食事プランを立て、無駄な購入を避ける。b食材の保管と管理:食品の適切な保管方法を学び、食材の鮮度を保つ。c食品の有効利用:残り物を新しい料理に再利用する方法を学び食品廃棄物を削減する。d.生ごみ処理機の利用:家庭用生ごみ処理機を導入し、生ごみを減量する。e食品廃棄物のモニタリング:食品廃棄物無料モニタリングアプリを導入する。	● ● ●

### 中項目 B-2-5 脱プラスチックや環境負荷の大きい化学物質を減らす

脱プラスチックや環境負荷の大きい化学物質を減らす

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
⑳	使い捨てのプラスチック製品の使用を減らす(消費削減、市場削減、生産者の義務拡大、意識向上など)	使い捨てのプラスチック製品の使用を減らす(消費削減、市場削減、生産者の義務拡大、意識向上など)	● ●
㉑	農業資材などの劣化したプラスチック(ブルーシートやマルチなど)をなくし、マイクロプラスチックによる海洋汚染を回避する。		● ●
㉒	マイクロプラスチックを含む製品の使用を減らす。スポンジは植物性のもの(へちま、布など)を使う。	★課題)陸域の場合は、車のタイヤから排出されるMPも多い。	● ●
㉓	純石鹼成分以外の界面活性剤など化学物質の環境負荷を考慮し、使用を減らす。	★永遠の化学物質についての普及啓発を行う。 ★課題)脱炭素との関連性を検討する。	● ●



## C-1 脱炭素に向けた取り組み全般、普及啓発

### 中項目 C-1 市民協働の継続

厚木市カーボンニュートラルロードマップ、脱炭素市民アクションプランを市民によく知ってもらい、効果的なアクションの展開、進捗状況の共有、さらに加速するための連携体を作り、市と継続的に協働でカーボンニュートラルの実現を目指します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
①			● ●

### 中項目 C-2 ★市内関係者との連携

★第3回会議では上がっていたが第4回会議で出なかった内容

★会議では出なかったが実行委員会で追加した内容

市内(近隣)大学、市内学校、事業者と連携し、効果的なアクションを展開します。

主体者 ● 協力者 △

ID	小項目:具体的な取り組み	課題解決策など	市 市民・行政・事業者
②			● ●